

鐘の鳴る丘が街に流れた頃。

〔昭和24年→29年〕

奥村泰宏

(昭和59年度横浜文化賞受賞)

終戦直後。

誰もが貧しく、誰もが空腹をかかえていた。

焼け跡は、進駐軍のカマボコ兵舎で埋まり、アメリカ兵が街を闊歩していた。

そんな中で、市民の毎日を生きたための闘いだった。

つらく苦しい生活だったが、どこかに明るさがあった。

市民は心の底で、平和をかみしめていたのかもしれない。

青年写真家は、カメラを片手に、横浜の今を撮り続けていた。



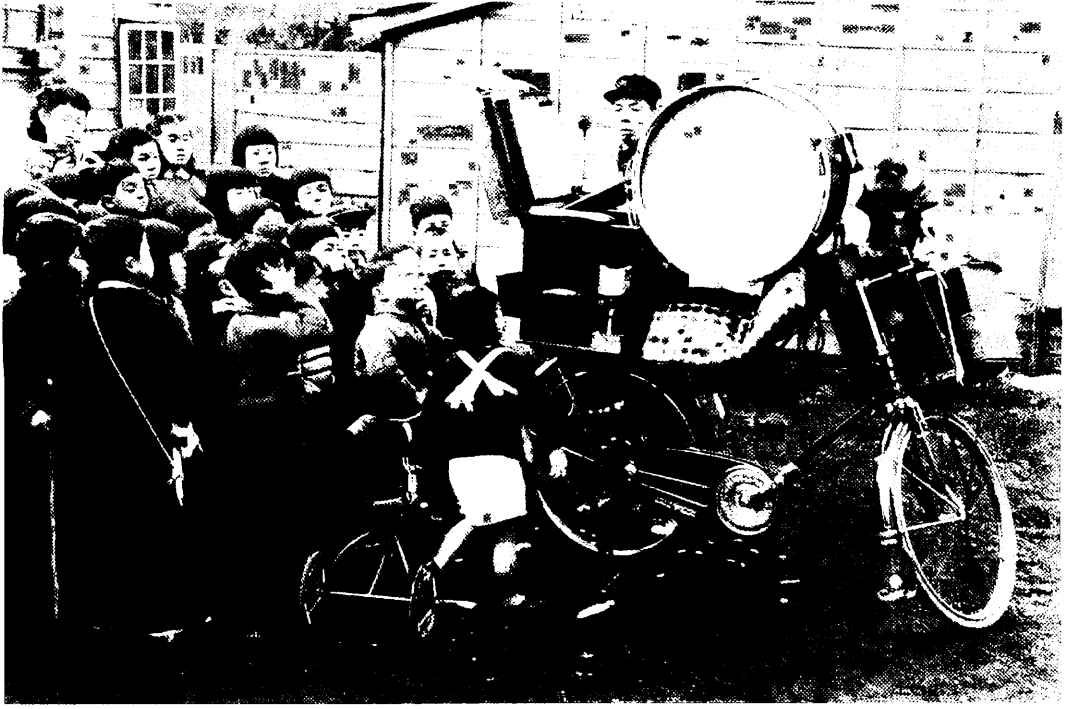
ガード下のこども達。(日ノ出町付近)



どこの子もこんな顔だった。(日ノ出町付近)



新聞少年。(日ノ出興)



猿をつれた紙芝居。(吉田町)



「寄らば切るぞ！」(中村川流域で)



メガネの行商。(野田)



傘の修理。(伊勢佐木町裏通り)



豆腐屋。(巴里)



反物を売る。(伊勢佐木町)



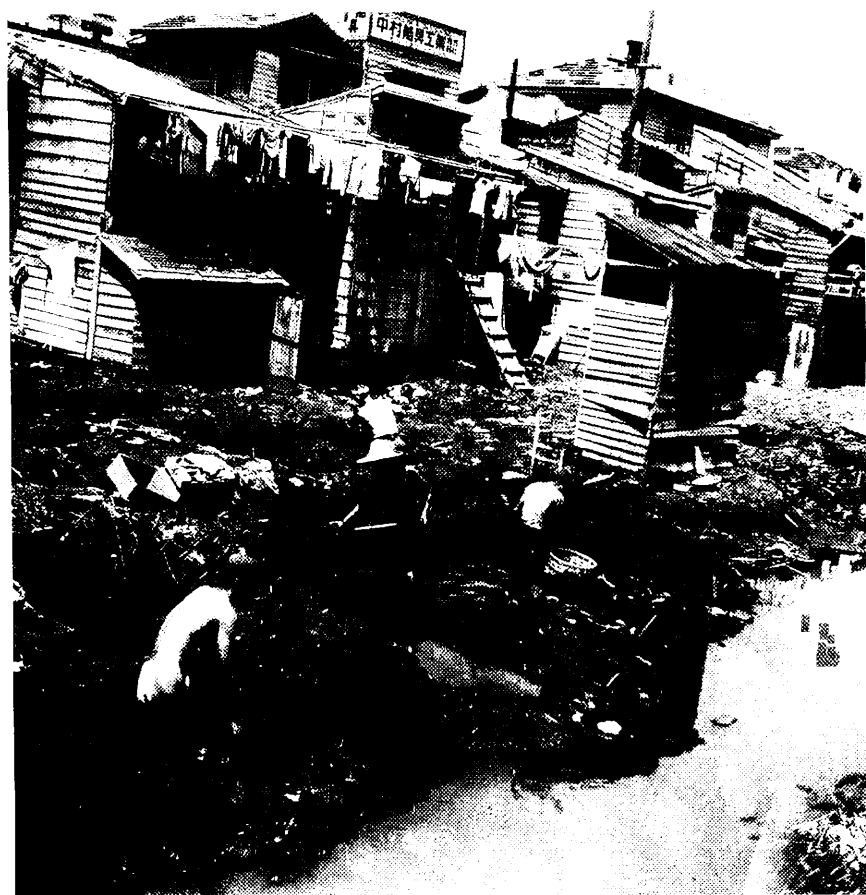
靴の修理。(伊勢佐木町)



靴みがき。(伊勢佐木町)



戦争の傷痕を背負って…。(桜木町駅前)



朝鮮戦争による金へんブームがおこった。(野毛の田舎川)



こんな頃もあった本牧。(本牧海岸)



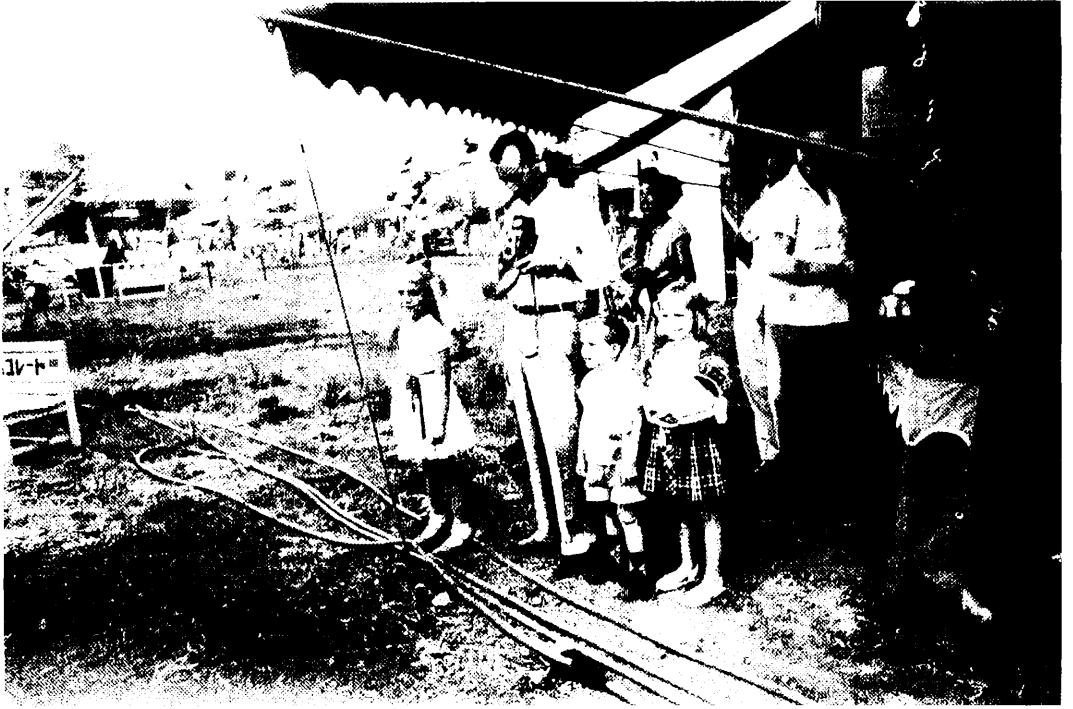
アメリカ軍の女性将校。(伊勢佐木町)



シューシャインボーイ。(伊勢佐木理)



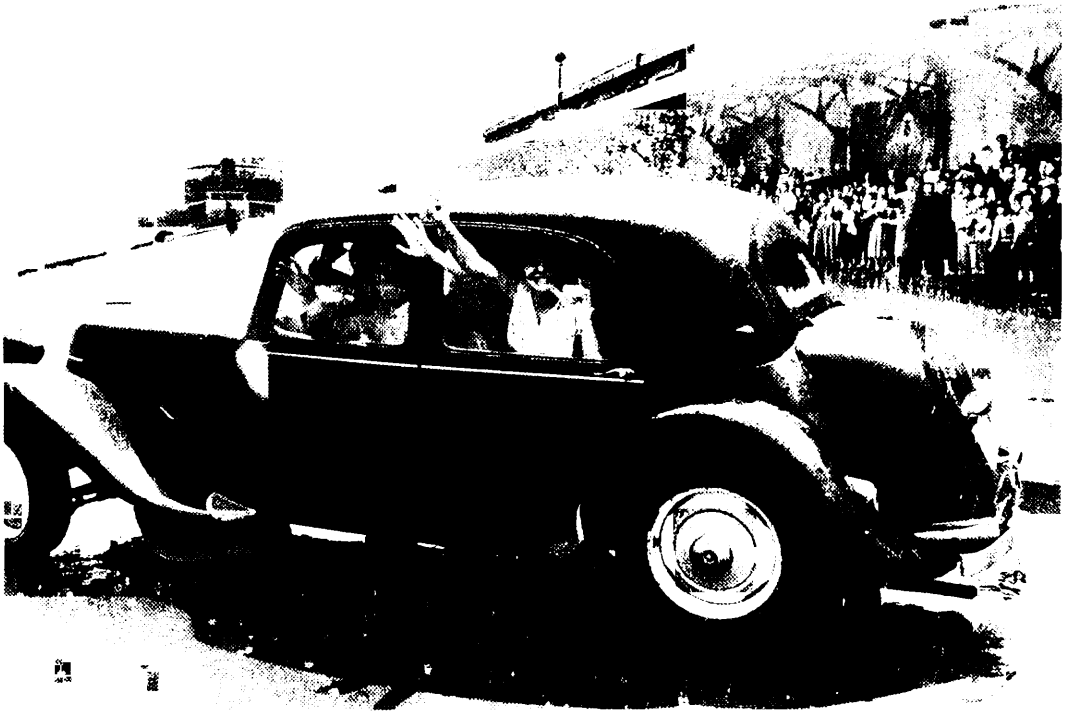
通バスを持つアメリカの少年少女。(日本人通)



アメリカからやってきたコニーアイランドショー。(長者町)



フランス客船「ラオス」出航の日。(大さん橋)



雨の日の見送り。(大さん橋)



通船の待合所にて。(大さん橋入口)



見送りにきたシスターとマザー。(大さん橋)



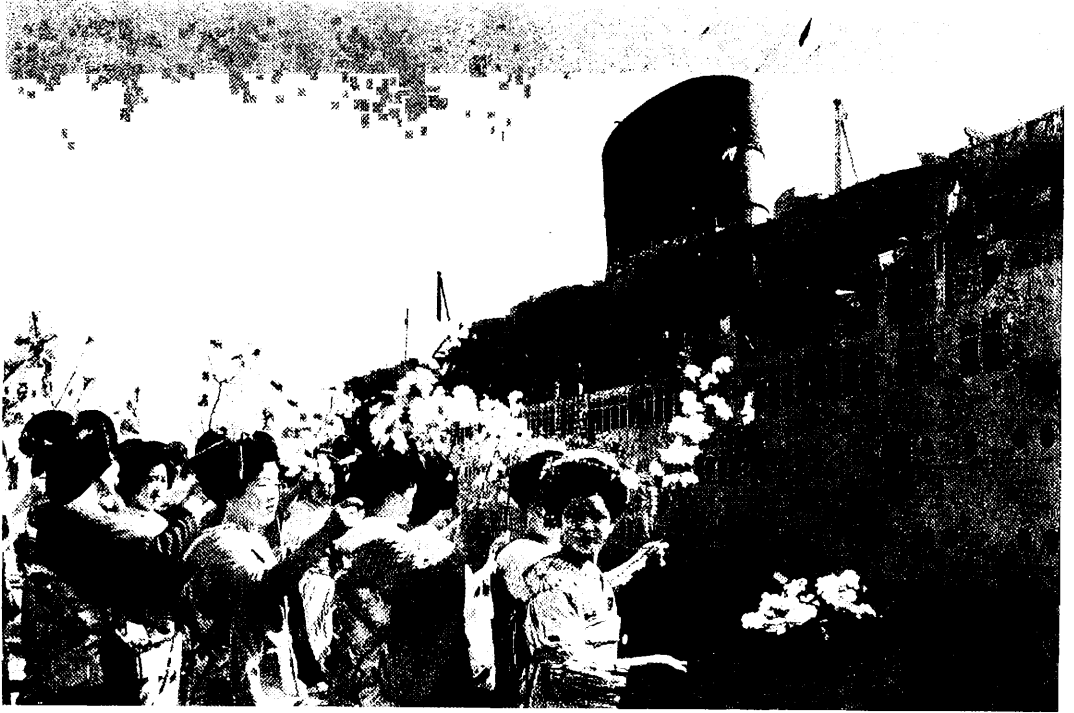
映画のワンシーンを思わせる。(大さな橋)



夫の出航を見送る妻。(大さん橋)



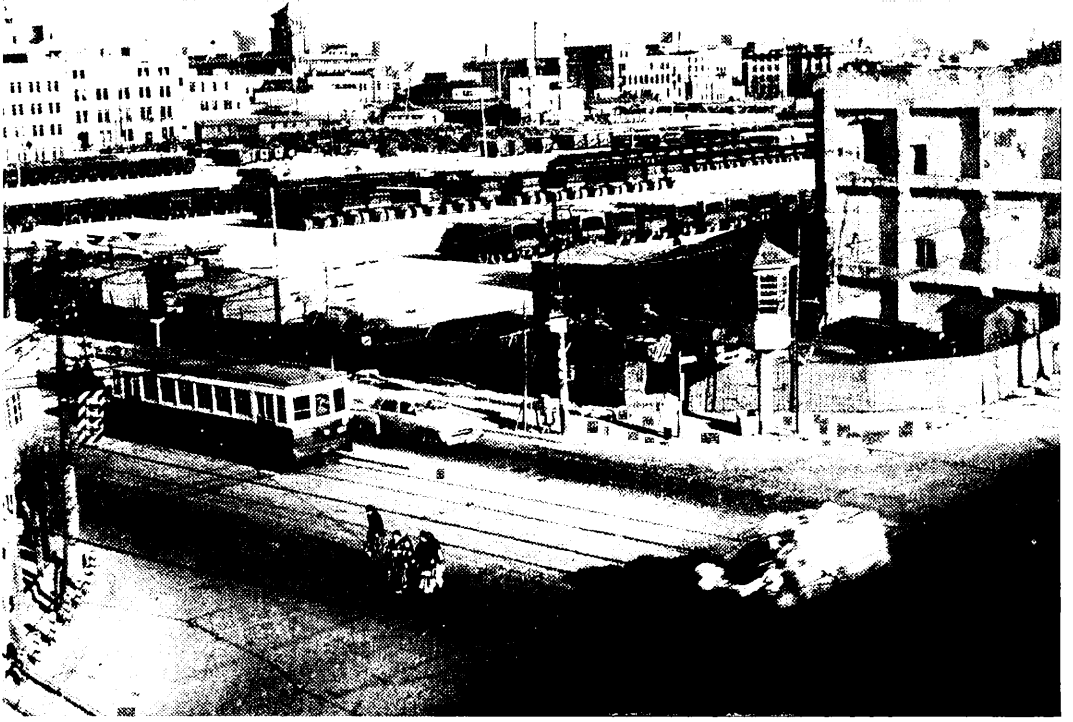
大さん橋は絶好のピクニックの場所だった。(大さん橋)



カロニア号を出迎える花街の女性たち。



宝塚のヨーロッパ公演出発を見送るヅカファン。(大さん橋)



モーターコマンドの基地があった尾上町付近より果庁をのぞむ。(尾上町)



カマボコ兵舎で埋まる吉田町・福富町方面。(田理の尺屋上より野毛方面)



抜取跡がなくなった初音町・万代町方面。左の橋は港橋。(山野沢屋屋上より山手方面)